ほんごう

学校HP

札幌市立本郷小学校
学校だより
令和８年８月２４日

帰宅時刻(4~10月)→17:00

本校のインクルーシブ教育

インクルーシブ担当教諭 岡野 栄美

インクルーシブ（inclusive）とは、「包括的」「すべてを包み込む」という意味があります。特定の人だけでなく、すべての人が互いを認め合い、共に生きることを大切にする考えとして、様々な分野で用いられています。この考え方を教育の場で実践するものが、インクルーシブ教育です。

インクルーシブ教育という言葉を聞くと、特別支援学級を想像することが多いかと思いますが、対象は「すべての子どもたち」です。子どもたちには、得意・不得意、好きなこと・苦手なことなど、一人ひとりに多様性があります。本校が授業で取り組んでいる UDL（学びのユニバーサルデザイン）の考えでは、つまずきや困りの要因は個人の特性ではなく、環境側にある「バリア（障壁）」にあると考えます。子どもたちが困っていることがあれば、それはやり方や環境を見直す合図です。一人ひとりに合わせた寄り添った支援や環境整備は、結果として「すべての子どもたち」にとって学びやすく過ごしやすい学校づくりに繋がります。

そのため本校では、学校全体で誰一人取り残さない教育を目指し、多様な関わりや指導方法の工夫に取り組んでいます。

具体的には、教員の連携を令和6年度から取り入れています。通常学級の教員がひまわり学級へ、またはひまわり学級の教員が通常学級の授業へ行ってそれぞれ授業をしたり TT としてサポートしたりしています。私自身も、通常学級3年生の図工の学習に TI として指導に入りました。ひまわり学級の児童もいる中で、個人ではなく一緒に活動できるようグループの形にしたり、互いの作品を見合って褒め合う・認め合う時間を取ったりなど、工夫して取り組みました。また、指示や板書など、言葉だけでなくイラストを取り入れ、聴覚だけでなく視覚からも情報が得られ、すべての子どもたちがやることや方法を理解して取り組めるように意識して進めました。

こうした全体へのアプローチとともに、一人ひとりの教育的ニーズに合わせた特別な場や交流の機会も大切にしています。本校の特別支援学級（ひまわり学級）には、今年度1～6年生合わせて24名在籍しています。児童によって各教科を交流学級で学習したり、教科以外でも委員会やクラブ活動、イチイ活動で一緒に活動したりと、共に学ぶ場がたくさんあります。また今年度から、ひまわり学級の子どもたちが実態に合わせて、休み時間に交流学級の体育館遊びや学級の遊びに参加する「休み時間交流」という取り組みを始めました。学習だけでなく、休み時間も共に過ごし、様々な関わりを通してお互いを知ること、思いやりの心をもつこと、協力する力を育んでほしいと願っています。

今後も、学びのサポーターやスクールカウンセラーなどの協力もいただきながら、御家庭と学校が対話を重ね、一緒に子どもたちのバリアを取り除く支援・配慮を考えていきます。インクルーシブ教育の推進には、私たち大人の意識改革が欠かせません。「すべての子どもたち」が安心して学び、互いを認め合いながら共に成長できる環境、一人ひとりが自分らしく力を発揮できる学校づくりに努めてまいります。これまでと同様に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

熊本地震並びに千葉豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表します。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。